

2024 年 7 月 12 日

学校法人三幸学園
辻学園栄養専門学校
校長 下畠 照正 殿

学校関係者評価委員会
委員長 町井 俊彦

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 町井 俊彦（メデイッシュフードサービス株式会社 取締役社長）
- ② 檜山 知子（第 11 期卒業生 社会福祉法人かおる会）
- ③ 有山 元治（飛鳥未来高等学校 教頭）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 7 月 3 日（会場 辻学園栄養専門学校 2 階応接室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、栄養分野の学校として「栄養を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、栄養分野として「栄養を通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 年度重点施策振り返り

コロナ禍からの緩和措置が終了し、通常授業の実施を試みたが、本校に入学するまでの経験などにより、個々の対応が必要な学生が確認された。メンタルヘルスカケアが必要な施策が急務と感じ、下記内容を施策した。

(1)メンタルヘルスをケアした教育施策

- ① 精神疾患等を抱える学生、コロナ禍で集団コミュニケーションを取れない学生が、本校で心の負担にならないように配慮した学校運営の対応
- ② カウンセリングルーム対応以外にも、ホームルームを利用したマインドセット時間の推進。
- ③ クラス運営の安定を重点課題とし、ペア担任制を導入。生徒が相談しやすい環境を整えた。
- ④ 入学当初実施するスタートアッププログラムにて、卒業までのイメージ、共に成長、共に学ぶ仲間であることを確認しあう。

(2)通常教育、集団学習への施策

- ① 学校行事の通常実施。
- ② 対面授業とオンラインによる課題提出。担任による未提出者へのフォロー。
- ③ 教科会の継続したシステム強化(多様化する生徒への理解。教科間の情報連携)

(3)学生対応における教員の一体化

学生が栄養士としての知識技術のみならず、社会人として求められるマナー(表情、挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度)取得の強化を目指した。コロナ禍の影響が感じられることも多いが、家庭環境など様々なことが起因して、個々へのケアが必要な場合も面談などを通して早期に対応した。教職員教育については、前記理解を求めると共に継続実施する。

② 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

社会全体の流れとして、卒業後の心のケアや各種サポートは、専門学校であっても必要であると実感している。自社の社員について、コミュニケーション教育や社会人マナー指導は、社員年齢に関係なく実施している。うまく集団になじめない社員については、個々人に応じた対応を実施している。また、心掛けている事は、集団対応ではなく、個別対応でのサポートである。

「檜山委員」

先日、大学教授との会合の機会があった。この場でも、正しい言葉遣いが出来ない学生の増加が話題に挙げられた。当施設が受け入れる校外実習生についても、同様に感じている。社会人としての言葉遣いのトレーニングができていないだけでなく、表情が乏しい学生も多々いる。おそらく、初めての校外実習への緊張もあるかと思うが、あまりにもリアクションや表情が乏しいと、指示内容が伝わっているのか不安になることもある。校外実習に参加させる準備として、言葉遣い、リアクションの重要性を理解させて頂きたい。

「有山委員」

本校は通信制高校であるため、全日制高校よりも、心のケアを必要とする生徒は多い。実感値として、全生徒の約7割に何らかのサポートが必要である。このような生徒と対応する場合に重要なのは、生徒との関係性の構築である。より良い人間関係の構築が無ければ、心のケアや様々な指導は困難である。精神的サポートで心掛ける必要があるのは、関係性構築と本音を話しやすくする環境づくりであると考ええる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像は明確であり、生徒・保護者への周知は、毎年4月のスタートアッププログラム及び保護者会等を通して行われている。2023年度保護者会は対面実施も検討したが、保護者の参加時間の難しさも鑑み、オンデマンドにて実施した。学校と保護者との連携は担任対応にて実施できているが、教育理念を体感させる機会の実施が引き続き課題である。

② 今後の改善方策

ホームルームや日々の指導の中で、専門学校は「社会人育成の場」であることを理解させる。また、学園全体としてクラスの学びの在り方を学習するプログラム(クラススタンダード)を実施することで、さらに学園理念の浸透を図る。担任は、入学後や進級後等の早い時期において面談を通して、生徒の抱える課題を把握し、サポートしつつ、自ら克服できるような機会を設けていく。また、保護者へ担任から連絡を取り、生徒の将来に向けて協力関係の構築し、生徒育成をより強固にすることを図るものとする。

③ 特記事項

教育理念から育成人材像をより体系化するべく、三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また、育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員及び生徒への浸透を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

教育理念の浸透のため、生徒だけでなく、保護者への周知など、素晴らしい取り組みをされていると思う。引き続き、教育理念浸透と生徒育成に力を注いで頂きたい。

「檜山委員」

担任教員が、生徒だけでなく、保護者とのコミュニケーションをとり、信頼関係を構築する努力をされていると感じた。生徒指導には、保護者の協力も必要であるため、今後も保護者様との関係性の構築に尽力頂きたい。

「有山委員」

様々な理由により、全日制高校から通信制高校に転校する生徒が一定数いる。本校への転校生の保護者様には、辻学園の卒業生もおられる。辻学園を卒業された保護者様が、姉妹校を転校先として選択されるという事は、辻学園がしっかりと教育をされている証であると感じたため、この場で共有させて頂く。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

学校運営、学校経営という視点、より効率的に、また偏りのない見地から、学校運営できるような組織作りを引き続き行うこと。特に、メンバー構成からも後進人材育成を引き続き重要事項として位置づけしている。業務の効率化が喫緊の課題である中、即戦力となる人材採用を進める。その為にも情報処理速度と勤怠管理のバランスが重要となっている。

② 今後の改善方策

学校運営という視点を育成していくためにも、様々な校務を担当していくこと。それにより、運営するための視座を養い、今後の人材育成につながるものと考え施策する。

中途採用した教員でも、社会経験が乏しい場合も見受けるため、研修などを重ね業務推進力向上を図る。

③ 特記事項

業務が多様化、肥大化する時代、求められる人材育成を組織全体業務として捉え実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

労務管理、就労意識向上のための教員研修は今後も継続してほしい。業務時間と給与のどちらを重視するかは、それぞれ教員によって違うと思う。教員の方も様々な背景を持たれており、時代やニーズに合わせた研修内容の選択が必要である。時代に合わせた就業環境の整備を行い、業務内容、働き方、給与などが満足できる業務環境になることを望む。自身も自社の業務効率化を進めたいと常に考えている。しかし、給食会社と事業所、役所との連携が複雑であり、日々、業務改善の困難さを感じている。

「檜山委員」

すべての教員が満足する労務環境づくりは重要であるが、実現は非常に困難である。この困難な課題に対して、学校として、解決する取り組みをされていると感じた。

町井委員同様、本施設においても業務効率は長年の課題であるが、調理師・栄養士など、多職種を巻き込んでの業務改善には時間を要する。

「有山委員」

本校に勤務する教員においても、何を自身のやりがいと感じるのかは様々である。教員の中には、生徒への教育と同等に広報業務も行う事に疑問を持つ教員もいる。より良い労務環境づくりのためには、入社前の理想と、教育現場での業務内容のギャップをいかに少なくしていくかが重要である。

また、業務効率化をするためには、常になぜその業務をしなければならないのかを意識することである。なぜ必要なのかを明確にできない業務は、無駄な業務と考え、思い切って無くす勇気も時には必要である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

ICT 化を進める中、教員のみならず高校時分にデジタル端末に触れた事が無い学生も見受け、その対応が必要。

課外研修は京都にて実施。普段の環境から離れ、チームで動くことや、限られた時間の中で結果を出すことなど、社会人としての必要なことを体験する機会となった。2 年次、集団給食を体験できる校外実習授業を通常実施した。また、業界連携をさらに深め、先端的な知識、技能、その環境整備が課題に感じる。

② 今後の改善方策

授業課題でアプリを使用することが前提であるため、操作方法のレクチャーを授業が開始される前の登校日等、早い段階で実施。校外実習に関しては、計画的に給食会社様と連携、受け入れ態勢の準備早期化に務める。研修などを通じて、先端的な知識、技能に関して習得できる機会を設ける。

③ 特記事項

継続してイオンリテール株式会社様との産学連携した商品開発を行った。お弁当、総菜、スイーツと幅広く開発に関わり、物価高騰の中、消費者目線、コストを勉強する機会を得ることができ、教育的効果を高めることができた。

学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

校外実習に関しては、学校側から受入れ先にどのような指導を望むのか、具体的なお意見を頂きたい。給食会社としても、校外実習内容に工夫を加え、いかに今の生徒の心に響く実習でできるのか、試行錯誤をしながら行っている。校外実習に参加することで、栄養士業務により魅力ややりがいを感じてもらえるように努めたい。

「檜山委員」

校外実習に参加する生徒には、自ら考える力を持って臨んで頂きたい。本施設に校外実習に来られた生徒や学生の方には、校外実習期間で何を学びたいのか、どのような事に挑戦したいのかを考える課題を与えている。この課題を通して、自ら考える力や栄養士の仕事が楽しくなるような実習を提供できればと考えている。

「有山委員」

今後、一人一端末で授業を受けてきた生徒が専門学校等に進学してくる。新しい世代の生徒や学生のほとんどは、ICT 教育を専門学校入学前に身につけてくるであろう。現状の生徒と接して感じる課題の一つに、漢字の読み書き能力の低下である。専門教育の現場では、専門用語や難度の高い漢字も授業で使用すると思う。スマートフォンなどで検索することで、読み書きについて曖昧には理解しているようである。しかし、正確に記述できない生徒も、多数存在するであろう。今後の就職活動支援には、正確な漢字表記や履歴書作成指導が必要である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

平常の学校運営を実施した一年であった。数人のチーム、多人数の集団で行動することもある中、それらを苦手とする生徒も多く見受けた。ペア担任制を導入にして、教員育成視点と休退学防止を図った。

卒業後の職業イメージについては、校外実習、学内授業を通して伝え、生徒自身のキャリアプラン育成の観点からも重点課題として実施する。

② 今後の改善方策

退学率低減に向けて、コミュニケーション能力向上をホームルーム・行事など、正規授業に偏らない機会からも得ることができるようにする。就職率向上、離職率低下を図り、担任、就職担当者と連携して、その学生にとって良き就職になるようにケアしていく。

③ 特記事項

2023 年度退学率 5.2% 18 /347 （2022 年度 7.2% 25/349）

2023 年度就職率 99.3% 143/144 （2022 年度 99.3% 134/135）

* 就職希望者としての数値

④ 学校関係者評価委員会コメント

「檜山委員」

学校教育の現場も、随時コロナ以前の教育が戻り、嬉しく思う。私自身が勤務する場所は、高齢者施設であるが、コロナ以前は、厨房内でのマスク着用のみ必須で、厨房以外でマスク着用をすることはほぼ無かった。しかし、コロナ禍以降は、高齢の利用者への感染症予防のため、厨房内はもちろん、施設内でのマスク着用は必須となった。

「町井委員」

現状として、厨房内でのマスク着用は推奨しているが、厨房以外でのマスク着用規制は設けてはいない。

「有山委員」

高校生徒の中には未だマスクを着用している者も多い。再びコロナ感染者も増加しているようであるから、感染予防としての着用している生徒もいる。しかし、それ以外の理由として、できるだけ顔を出したくないため、マスクを用いている者もいる。これは、通信制高校に通う生徒の特性の一つなのかもしれない。コロナ禍でマスク着用が日常になった生徒の一部は、今後もマスク着用を続けるように思う。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

進路・就職の希望調査を早期に、また時期を考えながら調査を定期的実施する事により、本人の希望沿った対応ができています。また、学生個人の相談および対応は、2024 年度から、利用のハードルを下げるため「コミュニケーションサポートルーム」と名称を変更して、継続運営、保護者との連携は担任を通じて行うも、高専連携については今後の課題である。

② 今後の改善方策

通信制課程高校卒業生が増加していく中、入学初期に以前の在学情報提供を受ける機会を検討、高専連携を試みる。まずは姉妹校から始めている。卒業後の追い掛け、情報については同窓会ネットワーク(SANKO LINK/SNS)を利用していく。

③ 特記事項

卒業後の連絡ツールとして SANKO LINK(SNS)を開設している。管理栄養士試験対策講座など各種発信もしているが、卒業後の就業状況確認に留まる。離職した場合、復職希望がある場合などのツールとして機能拡張できるか、今後に向けて整備していきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「有山委員」

カウンセリングルームの名称を変更することで、利用者の心理的ハードルを下げる工夫は良いと感じた。実際に利用者の増加については今後明らかになるだろうが、名称変更は心のサポート制度実施を再発信する良いきっかけになったのではないだろうか。

「檜山委員」

卒業後の連絡ツールが整備されている事は良いと思う。しかし、ツールだけが存在していても意味は無く、十分に機能するためには、これらのネットワークを利用する卒業生数が一定数以上存在する必要がある。ぜひ、卒業生へツールの周知や認知度を上げる工夫を行って頂きたい。

「町井委員」

在学中だけでなく、卒業後の生徒支援についても手厚くされていると感じた。また、在学中に担任を中心として、保護者様との連携をとられていることについても生徒へのサポートを大切にされる学園の方針を感じることができた。在校生や卒業生の特性に合ったツールを使い分け、今後もよりよいサポート体制の構築を期待したい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

校内施設の経年劣化が見受ける頻度が高くなり、修繕を計画的に実施している。ただ、修繕に留まる状況であり、現場設備と本校設備の平準化が今後の課題である。

② 今後の改善方策

施設設備の計画的な修理とそれに伴う予算確保、授業等に影響が出ないように引き続き整備する。現場設備については、校外実習などの機会を利用して、本校に活かせるものがあるか検討を重ねる。また、海外研修については社会情勢を考慮しながら、実施する。

③ 特記事項

社会のニーズに合った学生の輩出を考える場合、現場での働き方、その際の調理機器と本校の機器にズレが無いかは定期的に確認することが必要と考える。良き学生輩出の為に、積極的に検討していきたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

保育園の現場で、日常的に使用する調理器具は、主にスチームコンベクションオープンである。在学中に、スチームコンベクションオープンを使用する実習を十分に行う事で将来、就職した時に役立つであろう。

「檜山委員」

老朽化した調理機器の入れ替えは、学校だけでなく、現場全体の問題である。調理機器が故障やトラブルは、いつ発生するか予測がつかない場合もある。トラブルが発生しても食事の提供を止めることはできないため、緊急時の対応方法や、基本的な大量調理器具の使用に精通した栄養士育成を期待する。

「有山委員」

学校行事には、任意参加と必須参加の行事がある。通信制高校の生徒の中には、学校行事や集団行動を苦手とする者も多い。必須の学校行事であれば、参加させるために事前ガイダンスを徹底して実施する。また生徒特性によっては保護者様との連携も行っている。学校行事の実施には、通信制高校ならではのサポートを実施している。

(7)学生を受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集時、どのようなところでどのような仕事をしているかを話し、卒業後のギャップが無いようにする。
また、栄養士資格に関する学びのみならず、年間行事など、様々な学外での取り組みや学びについて事前説明を行い、理解を得るように努める。

② 今後の改善方策

募集活動時、年間行事など、その時期における学校生活の過ごし方を伝え、集団行動が難しい学生に対し、サポート出来得る対応についても事前説明を行い、心理的ハードルを下げることに努める。

③ 特記事項

自身の学力の特徴を把握させ、また本校も把握するために、入学前に基礎学力テストを実施している。また、入学後にもハイパーQU テストを実施、学生状況管理に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「檜山委員」

辻学園の募集パンフレットを拝見すると、現在の生徒に合わせた媒体作りをされているように感じた。現代の高校生は文字情報よりも、ビジュアルを重視する傾向にあり、パンフレットにも画像を多用し、学校生活や授業内容が用意に想像できる仕上がりになっている。また、常に在校生の意見を聞きながら、今の時代に応じた募集の工夫がみられる。また、集団生活を苦手とする生徒の増加している事については、辻学園のみならず、日本全体の課題とみている。入学した生徒が学びやすい環境整備をお願いしたい。

「町井委員」

生徒募集と合わせて、卒業生のフォローを引き続きお願いしたい。

「有山委員」

辻学園の先生方には模擬授業にお越し頂いており、生徒も有意義な時間を過ごしているようである。引き続き、模擬授業を通して、高校生の進路選択にお力添えを頂きたい

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

コンプライアンスの遵守、またその意義を理解する機会を継続的に設ける

② 今後の改善方策

定期的に全教職員にコンプライアンスに対する啓蒙を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

今年度、大阪市北区食育祭りへ参画し、食育を中心とした催しを行った。今後、地域貢献として何ができるか
勤怠状況の兼ね合いと検討しながら実施していく。

② 今後の改善方策

地域貢献として公開講座の実施には至っていない。同窓会を通じて、プロの方へのリカレント教育機会を設ける予定である。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

地域の行事にできるだけ保育園行事を連携させる努力は行っている。また、地域でのイベントで料理を提供するなど給食会社として参加できる範囲での貢献を実施している。

「檜山委員」

地域の夏祭りなどにはイベントのサポートのため、高齢者施設の一部を開放し、場所提供するなどの貢献を行っている。地域のイベントに参加させて頂く事は、高齢者施設を身近に感じてもらう良いきっかけにもなっている。また、地域住民に本施設を認知頂く事は、被災時の避難場所にも指定されている施設としては、重要である。

「有山委員」

現状、高等学校として特に地域貢献を実施している事は無い。他の委員の方のご意見を今後の参考にしていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ① 入学当初、一般的な社会規範である挨拶、返事などができない学生が多く見受けられるようになった。心の負担にならないように配慮しながらも、良き社会人育成という観点にて指導していきたい。
- ② 教育機器に関して現場での状況と差異が無いかを確認、卒業時に不利益にならないよう教育機器の定期的な更新を検討していく。
- ③ 卒業生へのアプローチ機会を向上させる。現在も SNS を通じて発信を行っているが、用途は限定的である。離職した場合、本校ができるサポート、キャリアプラン向上機会、リカレント教育など次のステップも考えた取り組みを行いたい。

- ④ 本科以外の学びとして、行事や課外研修などの取り組みがあることを入学前から告知、個々のケアが必要な場合などを事前に把握、本人と学校側、お互いができることを模索しながらも社会人育成取り組みを実施したい。

「町井委員」

先程、檜山委員からもご意見を頂いたが、現場は調理器具が故障した時でも、食事は提供しなければならない、トラブルに対応できる臨機応変さをご指導頂きたい。

「檜山委員」

栄養士は様々な職種と連携して働くことが求められる。栄養士も専門職の一つであるという自負と自信を持ち、他業種と共に働くうえで必要な知識を身につけて卒業して欲しい。また、卒業後は栄養士会などに入会することで、最新の情報を入手することができる。栄養士会への入会意義をぜひ、生徒へ伝えて頂きたい。

「有山委員」

辻学園栄養専門学校の自己評価報告と委員の先生方のご意見をお聞かせ頂き、改めて、社会人力を身につけさせる学校の責任感を感じた。高等学校で学んだことを卒業後に活用できるような主体性のある生徒の育成に力をそそぎたい。

「辻学園調理・製菓校 小林さん」

栄養士免許取得のために校外実習への参加は必須である。以前と現在で、生徒の質に変化があるのか、また、校外実習前に学校で準備すべき事があればご教授頂きたい。

「町井委員」

やる気を見せてくれる実習生には、教える側も色々伝えたいという気持ちになる。そのためには、やはり実習中の生徒のリアクションや表情も重要。また学校側からは、具体的に実習期間で実施して欲しい内容を受入れ先に伝えて欲しい。

「檜山委員」

明るく、元気で人の話をしっかり聞ける実習生は現場でも印象が良い。まだ生徒であるので、それほど調理技術を実習生に期待しているわけではないので、最低限のマナーは身につけて実習に挑んで欲しい。また、何か質問はないか、と問いかけても、返答がない場合もある。何を質問したらよいかわからないのであろうが、生徒自身も実習の目的を理解していれば、何らかの質問も出るはずである。

「辻学園栄養専門学校 大友さん」

生徒により良い教育活動を行うためにも、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保が必要である。近年、調理実習を担当できる人材確保に苦戦している。辻学園の強みである、調理実習の質の担保をするために、今後もよりよい人材育成および教員指導を行っていききたい。各委員の皆さんには、今後とも貴重なご意見を頂けるよう、お願いしたい。